

PRAEVIDENTIA DAILY (4月10日)

昨日までの世界：議事要旨で Fed が予想外にタカ派的との見方に微調整が入る

昨日は、3月FOMCの議事要旨で、メンバーの金利予測が高まったことについて、一部参加者から、FOMCの緩和姿勢が弱まったと誤解される恐れがあるとの懸念が示されたこと、また Yellen 議長が述べた、量的緩和終了後のFF金利引上げまでの「相当な期間」は6か月という見解について特に議論がなく、メンバーの総意ではないということも、3月FOMCは当初思われたほどタカ派的ではなかったとの見方が広がり、米中長期債利回りが低下、ドルが対主要通貨でほぼ全面的に下落した。中では豪ドル/米ドルが0.9399ドル、NZドル/米ドルも0.8726ドルと年初来高値を更新、ポンド/ドルが1.6801ドルと今年2月17日の高値(1.6823ドル)に迫っている。昨日は米10年債利回りは2.69%で終値からほぼ同水準だが、2年債利回りも低下幅が0.03%ポイントと2年債利回りとしては大きく低下したことが、2年金利差との連動性が高いこれらの通貨ペアでのドル安に繋がっている。米2年債利回りの水準は0.40%から0.36%程度へ低下、3月FOMC前の水準である0.34%にほぼ戻った格好だ。

他方、ドル/円は102円丁度近辺で前日終値から殆ど変わらない水準となっている。ドル/円は前日に101円台半ばへ下落し、下落率が主要通貨の中でも最も大きかったこともあって、欧州時間にかけて調整の買戻し基調となり、102.16円へ強含んだ。その後、FOMCを受けた米中長期債利回りの低下を受けて再び101.72円へ低下する局面もみられたが、引けにかけて10年債利回りが持ち直したことから、ドル/円も102円丁度近辺へ持ち直した。戻りが限定的で上値の重さが意識されると同時に、議事要旨発表後の下落も限定的だったことから、まずは102円前後で膠着感が強まるかもしれない。

なお、一部メンバーがハト派的な発言をしたとしても、3月FOMCで示されたFF金利予測中央値(2015年末に1%)が間違っていた訳でも、次回再び引き下げられることを意味する訳ではなく、結局 Fed の金融政策スタンスが徐々にハト派度が後退・タカ派化していることは変わらず、量的緩和縮小は今年秋までは毎回淡々と続けられる可能性が非常に高い。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	+0.2	-0.03	-0.03	+0.00	+0.01	+0.01	-0.00	+1.1	-2.1	+1.0	+0.2
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独格差
ユーロ/ドル	+0.4	+0.04	+0.01	-0.03	+0.01	+0.02	+0.01	+0.3	+1.1	+0.2	-0.03
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	+0.3	+0.03	+0.00	-0.03	-0.01	-0.00	+0.01	+0.7	+1.1		
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
豪ドル/米ドル	+0.3	+0.02	-0.01	-0.03	-0.02	-0.01	+0.01	+1.1	+0.3	+0.5	
	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
NZドル/米ドル	+0.4	+0.03	+0.00	-0.03	-0.03	-0.02	+0.01	+1.1	+0.3	+0.5	
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB	
米ドル/加ドル	-0.4	-0.02	-0.03	-0.01	+0.01	+0.01	+0.00	+1.1	+1.0	+0.5	

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。

きょうの高慢な偏見：豪ドルには上下両方向の力が働く

注目通貨：豪ドル↓↑

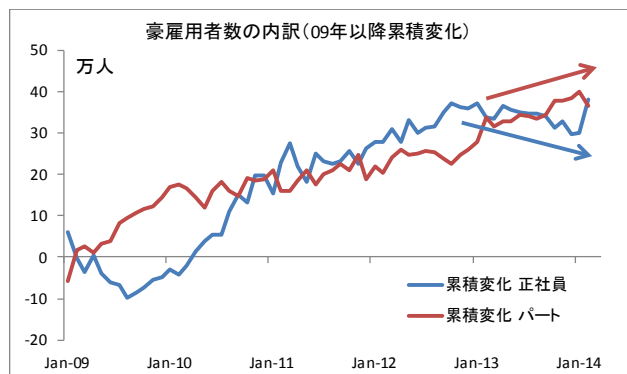
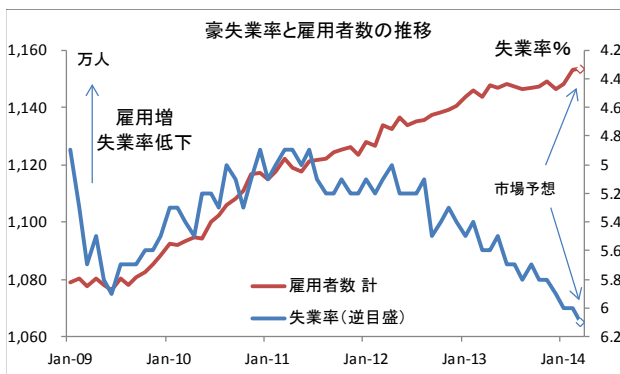
きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
英 3 月 RICS 住宅価格サーベイ	8 : 01	45	43	
Tarullo・FRB 理事発言	8 : 30			中立、投票権あり
本邦 2 月機械受注・前月比	8 : 50	+13.4%	-2.6%	
豪 3 月雇用者数変化	10 : 30	+4.73 万人	0.25 万人	
同・失業率		6.0%	6.1%	
宮尾日銀審議委員発言	10 : 30			ややハト派
中国 3 月輸出・前年比		-18.1%	+4.8%	前月分発表は 11 : 02 分
同輸入・前年比		+10.1%	+3.9%	
英 BoE 金融政策決定・政策金利	20 : 00	0.50%	0.50%	
同・資産購入・ポンド		3,750 億	3,750 億	
米新規失業保険申請件数	21 : 30	32.6 万件	32.0 万件	
Praet・ECB 理事発言	22 : 00			ハト派、チーフエコノミスト
Constancio・ECB 副総裁発言	0 : 30			
Evans シカゴ連銀総裁発言	0 : 30			ハト派、投票権なし
G20 財務相・中銀総裁会合				11 日まで、ワシントン

(出所) プレビデンティア・ストラテジー作成

本日は豪 3 月雇用統計および 3 月中国輸出入統計が注目で、これらはここ数か月振れが大きかったことから、市場予想から乖離する可能性が高いという意味で市場を動かしそうだ。

最近の豪州経済指標をみると、住宅関連が好調、貿易収支が黒字化しているほか、小売売上高なども改善してきており、全般的に回復基調に見えるが、失業率の上昇傾向が続いており労働市場がネックとなっている（**下図の左を参照**）。その労働市場についても、最近の豪雇用統計では前月 2 月分雇用者数が+4.73 万人と急増していたため、豪州景気に対する見方が大きく改善し豪ドル高に繋がってきた。今月分は+0.25 万人と増加幅が大きく縮小する予想で、これまでの月次の振れからすればマイナスに転じてもおかしくなく、失望感から豪ドル売りに繋がるリスクがある。特に、前月は正社員/パートのうち正社員の増加（+8.05 万人）が大きかったことも好感されていたため、正社員の反動減が大きいと失望感は大きい（**下図の右を参照**）。失業率についても、前月の 6.0%から今回 6.1%へ上昇が予想されているため、両方とも悪化すると豪ドルの反落は大きくなるだろう。但し、失業率予想の中央値は僅差で 6.1%となっているようで、前月から横ばいの 6.0%を予想している向きも多く、雇用者数とは逆に予想比改善（低下）リスクがある。このため、指標全体の結果がどちらになるか予想が難しく、豪ドルは発表後に大きく上下に振れるだろう。

中国輸出入統計では、豪州やニュージーランドの主要輸出先であるため輸入の注目度が高いが、このところ前年比+10%程度の高い伸びを続けていたが今回は+4.0%への鈍化が予想されており、更に悪化する場合には豪ドルや NZ ドルの下押しリスクとなるだろう。但し、中国の実体経済指標の悪化は当局による景気刺激策実施への期待感を高める面もあり、豪ドルや NZ ドルへの下押し圧力は限定的となるだろう。こちらの面でも、豪ドル、NZ ドルには両サイドの力が働くことになり、方向感が出にくいとみられる。



ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいますようよろしくお願い申し上げます。

当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。

当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社
金融商品取引業者（投資助言・代理業）関東財務局長（金商）第 2733 号
一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641